

[課題図書及び活動] ※4期生・5期生合同実施

担当者	服部 篤子	所属	高等研究教育院
テーマ	未来を思考する—進化を理解して探索する		
活動期間	<p>2023 年秋セッション(9 月～12 月)</p> <p>木曜日 5～6 講時に実施。フィールドリサーチまでは毎週。その後は変則的になるため留意のこと。公開セミナーは土曜日に実施する。会場はいずれも今出川校地を予定している。</p> <p>7月18日(火) ガイダンス(オンライン)。16時45分より 30～40分程度。</p> <p>9月中旬 事前学習:課題図書の通読。</p> <p>9月28日(木) 第1回学習日。ガイダンスとゴール設定。</p> <p>10月5日(木) 第2回学習日。「コンストラクタル法則」について。</p> <p>10月13日(金) 6.7 講時 第3回学習日。地域の未来政策。</p> <p>10月20日(金) 6.7 講時 第4回学習日。未来の予測。</p> <p>10月27日(金) 6.7 講時 第5回学習日。フィールドリサーチでの問いと仮説。</p> <p>11月3日(金)～5日(日) 学外フィールドリサーチ(鹿児島県大島郡。沖永良部島)。11月2日(木)は前泊(※)</p> <p>11月9日(木) 第6回学習日。フィールドリサーチの振り返り。</p> <p>11月16日(木) 第7回学習日。未来のデザイン。</p> <p>12月7日(木) 第8回学習日。進化。</p> <p>12月16日(土) 3～4 講時、塾生企画公開セミナーの開催。</p> <p>1月上旬 事後レポート提出</p>		
活動のねらい	<p>□活動のねらい</p> <p>「未来」という用語は、データベースで使用頻度のトレンドをみると2011年以降、急激に新聞等メディアで散見されるようになりました。東日本大震災が起きた年でもあります。社会の課題が顕在化し格差問題が身近な課題となってきた頃ではないでしょうか。あるいは、豪雨災害など自然災害が頻繁に起き、温暖化問題が他人事に感じられなくなってきたからかもしれません。さらには、2015年に、国連持続可能な開発サミットにて採択されたSDGsにおいて、企業や政府が対応を求められ、教育現場において大いに周知されることになりました。「未来」を議論する機会が増えたのは間違いありません。</p> <p>本セッションで扱う課題図書は、進化を扱う物理学の専門書籍ですが、社会は地球規模の生命体である、と述べ、規模の経済、不平等、社会的構成、複雑性など社会科学の領域を語るものです。本書によって身の回りの理解が深まり、以前よりも早く効果的に変化を生み出すことができる、と記述されています。</p>		

	<p>未来は現在の延長線上にはなく、様々な変化が生じる先にあるとすれば、1つの専門で予測するのは困難といえるでしょう。次の社会をデザインするにあたって、短期的な社会課題解決だけではなく、新たな価値観や着想が求められるといえます。本セッションは、読書を通じて学び、脱炭素先行地域に選出された島を訪れ実際の現場で調査し体感します。島では、官と民双方の動きを調査し、島で得た学びを中間報告（公開）として実施する予定です。</p> <p>つまり、理論と実践の両面から未来創造を探索します。幅広い観点から知見を得て自らの意見をもち、議論する姿勢をもつことを目的とします。また、本セッションを通じて得た知見を確かなものとし社会に還元するために成果発表として、塾生が公開セミナーを企画し実施します。</p> <p><u>※このセッションは、4期生・5期生が合同で活動します。</u> <u>※このセッションは、宿泊を伴う学外での活動を行います。</u> <u>※3期生がチューターとして参加する予定です。</u></p>
活動の流れ	<p>□流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 課題図書を用いた学習と、フィールドリサーチでの準備を並行する。セッション開始までに課題図書を全章通読しておく。課題図書の複数の章を用いて重点的に対話する。 ■ 各章ごとに、学びのあった箇所、疑問に思った箇所など重要だと思う箇所を抜き出しておく。討論できるようにその箇所について自分の意見を付記したメモを作成し提出すること。 ■ フィールドリサーチに関連する資料を収集すること。参考図書を通読しておくこと。各自得た情報と自らの問題意識を示したレポートを提出すること。 ■ 課題の提出先は、事務局が設定した Teams に各自アップロードする。提出期限は随時アナウンスする。 ■ 活動成果として、フィールド先での中間発表、および最後に塾生主体の発表会を行う。 <p>9月28日(木)第1回学習日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 5限 授業の目的、進め方を確認する。課題図書の中で重点をおきたい箇所について、フィールドリサーチの事前学習について、また、本セッションで必要なヒアリング調査の姿勢や準備についても話し合う。 ➢ 6限 コンストラクタル法則について、事前学習内容を持ち寄る。 <p>10月5日(木)第2回学習日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 5講時「コンストラクタル法則」について。理工学部教授後藤琢也先生による講義。 ➢ 6講時 課題図書第1章「自然と力」を用いて対話する。 <p>10月13日(金)6.7講時 第3回学習日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 6講時 第2章「規模の経済」を予定 ➢ 7講時 環境省の「第1回脱炭素先行地域」に選出された沖永良部島に関する事前学習を持ち寄る。

	<p>10月20日(金)6.7講時 第4回学習日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6講時 グループ分け。フィールドリサーチにおける論点整理。 ➤ 7講時 第3章「階層性」を予定 <p>10月27日(金)6.7講時 第5回学習日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 6~7講時 「問い」の設定と「仮説」,ヒアリング調査内容の確認。 <p>11月2日(木)前泊 11月3日(金・祝)~11月4日(土)沖永良部に到着後、石田秀輝先生(酔庵塾、東北大学名誉教授)のコーディネートにより調査を開始。 11月5日(日)午前に準備時間を設け、午後から公開中間発表会(ポスター発表)を実施。 ※フィールドリサーチの旅程等は別途作成される冊子を参照のこと。 ※フィールドリサーチのみの参加は認められません。</p> <p>11月9日(木)第6回学習日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 5講時 フィールドリサーチの振り返り。 ➤ 6講時 第4章「不平等」第6章「複雑性」についての対話。 <p>11月16日(木)第7回学習日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 石川正道先生(高等研究教育院)より未来シナリオについて講義。その後ワーク。 <p>12月7日(木)第8回学習日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 5講時 第8章「多様性」第9章「進化」。 ➤ 6講時 企画セミナーの確認。 <p>12月16日(土)3~4講時(今出川)公開塾生企画セミナーの開催。</p> <p>※事前学習のレポートや発表レポートは、常にTeamsで共有し、事前に他のグループや個人のレポートを通読したうえで出席すること。</p> <p>□事後課題 (1) 中間発表および成果発表での自らの貢献 (2) 秋学期を振り返り、問いに対して得た学びをまとめる (3) 未来シナリオを描き提出(任意)</p>
課題図書	自由と進化 —コンストラクタル法則による自然・社会・科学の階層性
図書情報	エイドリアン・ベジャン 紀伊国屋書店、2022年。
参考図書	危機の時代こそ 心豊かに暮らしたい
参考情報	石田秀輝 ロングセラーズ、2021年。